

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(西舎ユニット)		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成26年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽舎のホール全体に笑い声がある。理念である“一瞬の笑顔を求めて”をみんなで実践している。あるがままの姿も、その人らしさと受け止め、職員も喜びとなる様につとめている。西舎は、一人一人の個性を大事に利用者様のやりたい事など、出来る限り寄り添い、支援している。時には「わがまま」も、職員も楽しみながら聞いて、関わる支援を。外出したいという利用者様の声に、今年は積極的に外出の機会を設けている。その為に、日々の中で身体機能の維持、向上を目標として歩け歩け運動など取り組んでいる。季節の作品作り、福祉フェスティバル参加など、どきどき、わくわくの刺激のある生活を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地元の行事参加などに積極的に取り組んでおり、地域との関わりは深く、地域啓発への取り組みは積極的である。利用者個々の得意なことややりたいことを日々の生活の中に取り入れることで、利用者一人ひとりが事業所内で自分の役割を持った生活を見ることができた。調査当日の職員の声掛けや対応は、あくまで利用者のペースに合わせたさりげなく穏やかなものであり、支援場面からは利用者に対する“思い”が感じられ、利用者主体で尊厳と自己決定に配慮がなされ、利用者や職員の笑顔や会話からは、共に過ごし支え合う関係の上に成り立つ良好な関係を窺い知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念について理解し、共有できている。毎月の理念も職員が考え、日頃のケアへ活かせるよう毎朝唱和して実践へつながるようにしている。	全職員で毎月ユニット独自の理念を作り、話し合いもなされている。理念に基づいた月毎の目標を決め共有が図られ、実践に活かされていることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年必ず平田福祉フェスティバルへ参加しており、利用者様も、見に来る地域の方もお互いに楽しみにされている。西田小学校や光中学校の子どもさん達は、日頃から交流しており卒業式へ出かけたり地域のお祭りなどへ積極的に出かけている。	地域の行事にも積極的に参加しており、ボランティアを含む地域との交流も日常的である。地域に対して認知症の啓発の場ともなっており、地域とのつながりは評価できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	楽舎で日頃、実践し、学んだことを地域(西田公民館)の勉強会で講師として招かれ、認知症について講演会をした(施設長)光中学校の生徒さんが福祉体験学習として毎年楽舎にて学ばれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の研修で学んだこと、行事や日々の支援などの取り組みを発表、報告し、ご家族や市の職員さんなどメンバーから率直な意見を頂いている。	会議では利用者の様子や事業の報告が行われるとともに、地域との連携や利用者の状況に応じた支援のあり方などについて活発な意見交換なされており、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で楽舎でのサービスについて報告し、その上で困っている事やより良くする為にはどうすれば良いかアドバイスを頂いている。	行政に対しては都度連絡、相談を行うことができしており、日々の相談や運営推進会議などから、良好な協力関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解しており、日頃の声かけも職員同士お互いが注意しあい、スピーチブロックをしないケアに取り組んでいる。「ちょっと待って」についての学びの場、楽舎の3つのモットー「鍵をかけない」を実践している。	言葉によるものも含め、身体拘束をしないケア提供への意識は高く拘束は行わないケア提供がなされており現在事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修以外にも、日頃の申し送りの際など、話し合う場を持ち、絶対に虐待はしてはいけないこと、何が虐待になるのか？を全職員が意識を持つように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を使われている利用者様がおられ、行政書士の方から話を聞きスタッフで周知できている。勉強会も予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時ご家族様へ説明している。変更等ある時は、ご家族様へ文章にてお知らせしている。運営推進会議や面会時にも話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族連絡窓口は決まっているが、面会時、ご意見や要望をどの職員でも対応できるようにしており、連携が取れている。利用者様の声は、ケアプラン、モニタリング、毎日の会話、介護相談員による聞き取りなどにて情報を収集し日頃のケアに反映させている。	ホーム便りの送付や手紙を書いて日々の様子を知らせおり、行事や運営推進会議には家族の参加も多い。家族から出された意見は検討し日頃の支援へ生かす取り組みが構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の人事考課にて意見が反映されている。その他意見がある時は、管理者にすぐに相談、話をし、問題解決に努めている。	全職員が目標を決め、定期的に管理者と職員で意見交換を行っている。スタッフ間の関係は良好で気軽に相談出来る体制があることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は新年に、スタッフ全員が個々の「座右の銘」を掲げ、スタッフがお互いにどんな思いで支援をしているかを知る取り組みを行った。人事考課・目標・振り返り・見直しを個人、ユニット、会社と向上心を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月スタッフが持ち回りで担当している。外部研修の案内を随時送りノートに添付し誰でも参加できるようにしてある。今年もスタッフが資格の取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市グループホーム連絡協議会の役員会などで意見交換し、活動に活かしている。他の事業所等と意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と生活を共にし、その中での一言一言に耳を傾け、聞いた事などをカルテに記録を残し、スタッフも申し送りなどで把握するように努めている。本人さんが安心・納得して生活して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、電話連絡したりご家族様の面会時など、困っていること、希望、要望があるかお聞きし、楽舎でどのような支援をしていくか話し合い、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とその時の状態や支援について、必要に応じて話し合い、他の施設や機関とも協力・連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること・出来ないことを見極め(アセスメント)出来ることを必ず見守りしながら、手を出しすぎない支援を心がけている。洗濯干し、たたみ、食事盛り付け、食器拭きなど役割を持って、残存機能を活かした支援。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族さまへお手紙を書いて様子をお知らせし、行事がある時には案内を出して参加して頂いている。(福祉フェス・ありがとう会)外出や外食はいつでもOK。受診などご家族対応を基本として、利用者様との関わりを持って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事で外出する時は、利用者様の住み慣れた地域へドライブしたり(猪目の海)行事以外でも自宅へ洋服を取りに出かけたりしている。昔の仕事の同僚の方が来られた時にはご本人様とゆっくり話せる空間を大切にしている。デイからお友達や親戚の方が遊びに来られたり、同窓会のお誘いあればご本人・ご家族の意思を尊重して参加OK。馴染みの関係が途切れないよう支援している。	馴染みの場所や店、希望する場所に外出する支援がなされており、地域ボランティアの導入も積極的である。家族との交流も活発であり、縁者の方との関係が途絶えないような支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のそれぞれの状態に合わせて、スタッフが間に入って会話の橋渡しをし、皆さんが楽しくお話ができるよう気を配っている。耳が遠い方や聞こえない方には仲良しさんがホワイトボードを使って教えてあげたりしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはアルバムを作成し、パンフレットを再度お渡ししつつでも連絡して頂けるよう相談に乗ったり、解決に努めている。入院や他施設へ入所後も会いに行ったり、敬老の日にプレゼントを持って伺うようにしている。葬儀があれば、参列させて頂き、ご家族との良い関係を継続している。(助死師)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人、ご家族様に要望を聞き又、ご本人の好きな事、要望を伺い記録しスタッフ間で共有している。無理のない目標を立て、ご本人の思いに近づけるよう支援している。随時、記録にも残している。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、利用者主体とし、家族から意見を聞いたり、日々の生活から意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ずご本人、ご家族様に生活暦等細かく聞いたり、記入して頂き、把握に努めている。他のサービス事業所、医療の情報も一緒にカルテに閉じ、いつでも確認できるようにしてある。入所後もご本人、ご家族様から得た新たな情報も随時記入し、スタッフ間で共有し支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り時一人一人の心身状態を報告し、どのような支援を行うのか、ポイント配慮すべき事をスタッフ間で共有している。特記事項は申し送りノートに記載し、出勤時必ず確認する。又は出勤時すぐ伝え把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング以外でも、スタッフからの問題提起により、検討会議を行い、ご家族に報告、相談しながら計画を作成している。必要に応じてヘルパー、デイサービス、福祉用具、医療機関と連携を取り、より良い生活が送れるよう努めている。	あくまでも利用者本人の思いや暮らし方を大切にしたいケアプランが作成され日々の業務に生かしている。プラン作成時のカンファレンスに家族参加が得られない場合は、カンファレンスの記録を郵送するなどし、チーム一体となったサービス計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	楽舎式毎日の記録にケアプランの目標について毎日評価ができるよう記録欄を設けている。気付き、気になる所、特記事項はアンダーラインや赤ペンで記録し、スタッフ間で分かり易いよう工夫している。又、気付いた時にスタッフで記録時間に支援について話合ったり、確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院時や受診時、スタッフが通院介助をしたり、外部よりヘルパー、タクシーをご利用頂くこともある。一人暮らしの方で家の事が心配な方には一緒に自宅へ行く事もある。ご本人の外泊いつでもOK。又、ご家族様が楽舎へいつでも泊まる事ができるように設備を整えてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の職員さんから、毎夏、ヘチマの苗を頂き、利用者様と水遣りをしたり、大正琴ボランティアさんと毎月次のリクエストを交換して楽しみとなっている。生け花のボランティアさんもよく来られ、玄関まで見に出られ季節を感じておられる。又、島根銀行さんへ、楽舎で作った作品を展示してもらい、地域の方との接点となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけかかりつけ医をそのまま続行して、必要であればその都度ご家族と相談しながら病院へ定期的に受診して頂いている。往診は約2週間に1回あり。24時間医師へ連絡体制が取れている。	利用前からの掛かりつけ医での医療が受けられるよう、家族等と共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者全員のバイタルを一覧表、カルテへ記録し、異常があれば再検し看護師へつなぎ指示を仰ぐようにしている。病院受診時は、様子等お手紙に書いて医師へ伝え、返事(指示)を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、なるべく早い段階で楽舎スタッフ、医師、ご家族とカンファレンスを行い、今後の支援について話をして決めている。必要な治療が終われば早い段階でリハビリも兼ねて、退院受け入れをしている。入院中は、スタッフが面会に行き、病院と情報交換をしたり、認知レベルが低下しないよう関わりを持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のお手紙や面会時に、その都度状態をご家族へ伝え、知って頂くよう努めている。入所時にもターミナルは楽舎では基本しない事など理由もきちんと説明し、必要であれば特別養護老人ホームへの待機申し込みを勧めたり、ご家族や本人の思い・意向など話し合い、確認するようにしている。	本人や家族の意向を踏まえ、事業所が提供できる最良の支援方法を話し合いケア提供がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをスタッフルームに置き、いつでも確認できるようにしてある。119対応の職員研修を行ったり、日頃から特変があった場合はどこへ連絡するのか、119シートがカルテに一人一人あることや、糖尿病、心臓病、低ナトリウム血症など、どんな症状に注意すべきかなど話をして誰もが動けるように努めている。AED研修もあり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消防訓練は年2回実施しており、消防署から毎回アドバイスを頂き、実践へ活かせるようにしている。夜間想定での避難訓練や、水害時の避難についても訓練を行い、避難誘導アセスメントを行い、全職員が速やかに避難誘導、連絡ができるよう訓練している。ネームプレートがあり、地域の方が助けに来てより分かるようにしてある。	避難訓練・消火訓練を利用者も交え行っている。運営推進会議を通して地域との連絡伝達訓練も行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の自尊心を傷つけない様配慮し、敬語を使い声かけをしている。又外出される際にも自信を持って楽しく、気軽に外部の方と交流ができる様に明るくおしゃれな格好で外出して頂いたり、外部の方にプライバシーが漏れない様バット等はハンカチに包みバッグに入れる等配慮している。	尊厳の重視に関しては、研修や会議等で全職員への徹底が図られている。居室に入る際のノックや声かけなど、日常の様々な介助場面でも配慮が伺えた。個人情報保護に関する対応も的確である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを形にできる様、選択肢を用意して自己決定して頂ける支援をしている。その日に着たい服と一緒に選ぶ、バイキングをして好きなものを好きなだけ取って食べる、献立と一緒に決める。お茶は、好きな物を選んで頂いている。ほしい物を一緒に買いに出かける。等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れはあるが、時間を区切らず利用者様が望まれる事に対し、出来るだけ個々のペースに合わせる支援を行っている。食べるのがゆっくりの方、居室で過ごすのが好きな方、庭へ出て花を作るのが好きな方テレビや新聞を楽しまれる方と今までのその方の生活暦を考慮して、自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、移動美容院が来て、カット、パーマ、カラー、髭剃りなどされている。楽舎スタッフに元美容師もいて、希望に応じて散髪もしている。毎朝男性は髭剃り声かけを行い、入浴時女性も顔そりをする等整容に気を配っている。毎晩、バックをしたり、髪を巻いたりされる方もいて、その方のペースに合わせて支援している。外出時は、スラックスを履いて頂いたり、お化粧を楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に何が食べたいか伺いながら一緒に料理を作っている。食事の準備(野菜を切る、盛り付け、配膳)や片付けを会話をしながら行う事で家事参加を促し、食事が楽しみとなる様支援している。匂いや、彩り、旬の食材を使うなど季節感を大事にしている。	食事は炊事、準備、片付けも利用者と一緒にこなっており、利用者と同テーブルで食べており、メニューも季節感が感じられ和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一目で分かりやすいようにカルテに毎日記録している。食事が入りにくい方にはパン、おにぎり、ふりかけなどで対応している。献立ノートがあり、利用者さんの声や残飯量を記録し、より食べやすい献立を考えたり栄養が偏らないよう配慮。水分はお茶、ゼリー、熱いのが好きな方、糖質0などそれぞれに合わせた物を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを徹底しており、口腔内を清潔に保っている。(楽舎では熱発が少ない)歯のない方でも舌クリーナーやモンダミン等がうがいで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導、声かけ(1日約10回)の他に、入浴前やお茶の前等タイミングを合わせてさりげなくトイレの声かけをしたり排便チェックを毎日つける事で出るタイミングを見つけ、トイレでの排泄支援を行っている。オムツは使用0	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握したうえで無理のないトイレ誘導や水分摂取を促している。季節や昼夜により紙パンツやパット、下着を使い分ける等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取って頂けるよう冷たい、温かい、ゼリー等好きなもの、飲みやすいものを用意したり、間でごまめに勧めたりしている。毎日、朝と15時に運動したり食事栄養バランス良く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、その方のタイミングで入浴して頂いている。一人ずつ、なるべくゆっくり入浴を楽しんでもらうように支援。入浴以外にも、冬は足浴をしたり、夏はシャワーをしている。季節の菖蒲湯をしたり、ゆらりへ温泉行事にも出かけて楽しんで頂いている。	入浴に関してはあくまでも本人等の希望に合わせた入浴ケアが提供されており、入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けに工夫するなど、一人ひとりに合わせた入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠ミルク(ホットミルク)を提供し眠りに入りやすい支援をしている。日中はなるべく起きて体を動かしたり、レクリエーションなど参加を促し夜しっかり眠れるよう支援している。その方の生活習慣を尊重し、遅くまでテレビを見る人、読書される人、昼で休息される人とそれぞれ過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、申し送りをしてスタッフが把握し、様子をカルテへ記録に残し、医師へつなぐように努めている。薬局からの説明もあり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中からその方の好きな事、昔やっていた得意な事など聞きだし、又その方の出来る事をスタッフが把握し、共有することで日常の中でして頂き、活躍の場を作っている。(掃除、洗濯、調理、作品作り、花作り)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、外出先を利用者様と話をしながら決めて出かけたり、ドライブは出かけられる時にいつでも出るようにしている。家族様と協力して、自宅に帰ってお風呂に入る方、一緒に欲しい服を買い物へ出かけられる方、近所の友人の家へ遊びに行かれる方と出かけている。	散髪・買い物・外食・ドライブ・花見等外出に向けた機会を多く持つよう支援がなされている。内容も多岐にわたっており外出の機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と外出する時や受診時には、預けてあるお財布(現金)を持って出られる方がおられる。欲しい物をご自分で買われたり、ご家族様にごちそうされたりと、満足されている。又、楽舎のFAXでご家族様とやりとりされている方もおられ、毎月預り金より支払いされ安心して使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日のご家族様とFAXでやりとりされている方は遠く離れていてもお互いの様子が分かり安心されている。又友人や姉妹とお手紙のやりとりをされている方、ご家族様と電話がしたいと希望されれば、ご家族様の都合の良い時に合わせ電話の支援をしている。年賀状や暑中見舞いの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月その季節に合った作品を利用者の皆さんと作り飾ったり(見当識)、利用者の方が趣味で細かい作品を作られたのを廊下やホールに見える所へ展示している。(目線の高さ)	木材を多く用いた落ち着いた共用空間であり、壁飾りなどにも季節感が感じられる。空気のよどみや嫌な臭気もなく、テレビの音量など、利用者にとって快適であるよう心配りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル席は気の合う仲良しさんで分かれており、お話しやすい空間となっている。畳のスペースがあり、お昼ねが出来たり、洗濯物を置くスペースにもなっている。廊下にも畳みベンチがあり、休憩したり、お話をできたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談しながら、家と同じ配置でタンスを置いたり、使っておられた馴染みのあるものをそのまま使用。その方に合った高さのベッドを用意して頂いたり、転倒しないようご家族にも協力して頂いて居室を片付けたり、配置がえを行ったりしている。	利用者が自宅で使い慣れた家具や大事な物を持ち込んで頂き、利用者個々の希望に沿った落ち着いた生活の場となるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線の高さに合わせ、各居室に一日の流れやカレンダー、トイレの位置が分かる張り紙等してある。段差やスイッチなどは赤テープを貼り見えやすくしてある。		